

きましたが、政府が国家プロジェクトとして取り組んでいただけるよう県・関係機関との連携を強化しながら鋭意努力していきます。

○放射能から農畜産物を 守る取り組みについて



まさかつ
前田 正克
みやけ
三宅

質問 地元産の農畜産物の安心安全を発信するために、放射能検査をどのように進めるのか伺います。

市長 検査機器を行政で1台、2JAにそれぞれ1台を設置し奥州市産農畜産物等の放射性物質調査を実施しています。今後消費者の不安を払拭すると共に、生産者が自信を持つて営農できる体制を整えて参ります。

質問 農家が販売する農畜産物の全ての販路を網羅し、行政指導で検査を受けさせるべきと考えますが市長のご所見を伺います。

市長 奥州市のブランドを守り、安全安心をアピールする取り組みとして、農畜産物の安全認証システムや品質管理体制の構築を目指す等、積極的な対策を講じます。

質問 風評被害と販売対策について伺います。

て伺います。

市長 消費者が正確な情報を得て奥州市産農畜産物の安全性を実感し、風評に惑わされることなく安心して購入できる体制づくりが喫緊の課題です。品質管理体制を速やかに構築し、検査によって安全性が確認された品目については、その安全性を積極的かつ客観的にアピールしながら販売回復、販路拡大に結びつけて参ります。

質問 農畜産物販売強化に向けた取り組みについて伺います。

市長 被災地復興支援目的のフェアや物産展への出展打診があり、奥州市農畜産物利用促進協議会では、構成団体である2JAや産直施設などと連携を図りながら積極



2JAに配置された農畜産物放射性物質測定器（JA江刺で測定）

的に対応して参ります。

○放射線量の計測結果による健康管理及び環境対策について



おさむ
宮 治
さんの
みや

質問 放射線量計測の結果、奥州市内で広い地域の汚染が確認されました。3月の時点で、放射性ヨウ素の降下があった事により、今後、幼児・児童の甲状腺障害が懸念されます。その対策については、幼児・児童施設の除染について、いわき市は0・3マイクロシーベルト/h以上の所を除染すると決めております。奥州市では食品の検査機器を購入することですが、その機器の性能と運用方法について、野焼きや稲わらの焼却について今後、何らかの指針を決定し、焼却されるのか、今後増大する放射物質を含んだ焼却灰・汚泥処分の方針について伺います。

市長 甲状腺の障害については乳幼児健診等での触診などで対応するほか、検査体制について国・県に強く要望していきます。除染については現在1マイクロシーベルト/h以上の所から行っています



汚染土壌を遮水シートに包み埋設（白鳥小学校〈前沢区〉）

が、その数値でよいとは考えておりませんが、今後0・3以下安心できる数値まで出来るだけ線量の低減に努力して参ります。食品の放射能を検知できる機器を2JAに各1台、市に1台を購入し安全認証システムを構築、積極的な対策を講じていきます。稲わら等の焼却については、農業関係者と共に検討を進めてまいります。焼却灰・汚泥については、現在国から示された基準に基づき一般廃棄物最終処分場で処分を行っています。今後国の取り扱い等の変更も考慮し埋立て場所の記録やモニタリングを行い適切に対応します。